

企業ニュース ディスコ

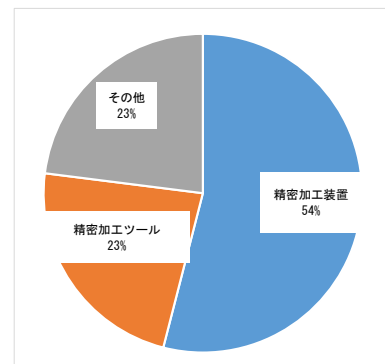
(東証1部 : 6146) <http://www.disco.co.jp/>

作成者 : 兵藤三郎

精密加工装置メーカー

1937年、広島県呉市で「第一製砥所」創業。1969年の米国向け輸出開始にあたり社名の英語表記から、米国法人がDISCOを使用。1977年に、現在の社名に変更した。精密加工装置及び精密加工ツールの製造販売を行っているメーカー。小さく切り分ける(ダイシング)、薄く削る(グラインディング)、鏡のように磨く(ポリッシング)、3種類の加工装置に特化し、半導体や電子部品メーカー向けに事業展開している。μm(1/1,000mm)レベルでの切り分け、5μmレベルまでの研削、鏡面のような研磨が可能。精密加工ツールは砥石など装置に取り付ける消耗品(ダイシングブレード、グラインディングホイール、ポリッシングホイール)を扱っている。半導体製造工程では回路転写前のウェーハ平坦化や、回路形成後の裏面研削、ダメージ層の除去、ウェーハから半導体チップの切断など多くに対応している。

◇21. 3期製品別構成比



(出所) ディスコ資料よりCAM作成

生産はフル稼働の状況、受注残高も豊富

22. 3期・第1四半期(4-6月)の連結業績は、売上高が483億円、前年同期比35%増、営業利益が154億円、同66%増。精密加工ツールの販売が堅調に推移し、期初計画から売上高で15億円、営業利益で22億円上振れて着地した。為替の円安推移、消耗品構成比上昇に伴うミックスの良化、稼働率上昇などが寄与した。会社側では、装置の売上が若干想定より弱めで着地、検収タイミングによる変動と認識している模様。引き合いは依然高水準で、受注高は719億円となった。6月末時点での受注残高は925億円、従来リードタイムは短く受注⇨出荷と説明されていたが、足元では1四半期程度と若干長めとなっている模様。想定より需要が強く、フル稼働の状況が続いていると推察される。これが稼働益上昇、価格下落の抑制などで、利益面に寄与している模様。

22. 3期・第2四半期累計(4-9月)連結業績の会社計画は、売上高が1,064億円、同28%増、営業利益が341億円、同46%増。装置検収の進捗に伴うミックスの悪化、為替水準の円高方向への見直し(1ドル=105円前提)などを勘案するも、工場はフル稼働の状況が続いており、第1四半期の受注・受注残高の水準などを勘案すれば業績は上振れる可能性があるだろう。

[株価動向・投資判断]

旺盛な半導体需要がけん引し、中期的な業績拡大が期待できる銘柄。生産能力増強投資の費用は発生するが、継続するフル稼働状況が利益面でも貢献している。

<6146 ディスコ 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20. 3	141, 083 (-)	36, 451 (-)	38, 314 (-)	27, 653 (-)	769. 6	438. 00
21. 3	182, 857 (30)	53, 106 (46)	53, 629 (40)	39, 091 (41)	1, 085. 5	677. 00
22. 3 予	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	-	-

(注1) 20.3期より「収益認識に関する会計基準」等を適用したため、20.3期の伸び率は「-」表示

(注2) 需要予測が困難なことから業績予想は1四半期先までの開示のため、22.3期の業績予想及び伸び率は「-」表示



[主要株価指標]		(売買単位: 100株)
株価 (2021/7/30)		31, 150 円
年初来高値 (高値日)		38, 950 円 (21/1/15)
同 安値 (安値日)		30, 450 円 (21/7/21)
予想 P E R (22. 3 予)		- 倍
1株株主資本 (PBR算出用)		6, 710. 4 円
P B R		4. 64 倍
予想配当利回り		- %
(1株当たり配当金 未定)		
R O E (21. 3)		16. 4 %
発行済み株式数		3, 607 万株